

# DIAMレポート

## ～国内株式市場：最近の相場動向と今後の見通し

### 最近の国内株式市場の相場動向

◇本日16日の国内株式市場は日経平均で一時600円超の大幅下落となり、16,000円を割り込む急落となりました。ここ数日の急落の背景としましては、米国サブプライムローン問題が欧米金融機関の信用リスクに波及し、近年レバレッジを利かせて世界中のリスク資産に投資してきたファンドのポジションクローズの動きが発生していることが主因と考えます。また本日顕著であったのが為替の円高で、本来金融要因で下落した株価を支えるべき企業業績について、円高リスクからの先行き懸念が株価の下支えとならない状況を短期的にもたらしました。加えて本来ならば主要国の中で最もファンドビジネスが少なく、かつマクロ・ミクロの経済見通しが良い日本の株式市場は、相対的には下落率が低いはずですが、季節要因等による株式需給関係の悪化により、足元ではフェアバリュー(適正価格)を大きく割り込む水準まで売り込まれたと見ています。

### 今後の国内株式市場の見通し

◇今後の見通しについては市場の混乱が落ち着きを取り戻すにはしばらく時間が必要であり、短期的には値動きの激しい相場展開になると思われます。住宅市場が米国経済に与える影響については今後注視する必要がありますが、信用収縮の問題は避けられず、海外投資家のリスク許容度の低下からグローバルなリスク資産を縮小させる動きがしばらく続くことが想定され、株式市場は上値の重い展開になると思われます。98年のLTCM危機や02年のエンロン・ワールドコム経営破たんの際は市場が正常化するのに4ヶ月程度の時間がかかりました。

◇中長期的な視点からは新興国経済を中心に世界経済が好調に推移していることや日米の堅調な企業業績が下支えとなり、徐々に世界の株式市場は落ち着きを取り戻すものと考えられます。日本市場は為替の円高リスクはありますが企業業績が好調に推移しており、中間期には上方修正が期待されることやPERの水準が17倍程度と割高感が薄れています。マクロ景気は企業の設備投資が高水準を維持していることや年後半には失業率の低下により雇用環境の改善から個人消費の回復が期待されることなど日本経済は堅調に推移すると想定され、市場全体の動きは03年からの上昇トレンドを継続するものと考えています。

本資料のコメントはあくまでも作成日時点のものであり、将来変更する可能性があります。また、市場動向や個別銘柄の将来の動向を保証するものではありません。

### 興銀第一ライフ・アセットマネジメント

本資料は興銀第一ライフ・アセットマネジメント(株)によって情報提供を目的に作成された資料であり、証券取引法上の開示資料ではありません。また、投資信託の購入やその他の投資を推奨するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成したものです。当社がその情報の正確性、完全性等を保証するものではありません。本資料のコメントはあくまでも作成日時点のものであり、将来変更する可能性があります。また、市場動向や個別銘柄の将来の動向を保証するものではありません。